DIARIO No. 2349 S. Paulo, 4 de DEZEMBRO de 1940 NOTICIAS DO BRASIL Redacção e Administração Rua Fagundes, 196 - Caixa, P

伯剌西爾時報

發行所 伯剌西爾時報社
電話 七・四六〇七
社長 黒石清作
Director M Sameshima
購讀料 一ヶ年 六十軒
半ヶ年 三十軒
廣告は御照會次第御返信

珈琲	
サントス四級 十キロ	ノミナル
リオ七級	一二二〇〇

爲替	
對日	四、六六五
鄕里送金	五、六七〇
對米	一九、七七〇
對英	八〇、〇五〇

米の援蔣具體化實行へ

先づ一億弗の借款承認

武器軍需品も 對支供給强化されん

ハル長官記者團に語る

（ロンドン二日同盟）援蔣新借款一億弗供與案は二日兩院銀行通貨委員會秘密會にかけられたが委員會はハル國務長官とモーゲンソー財務長官の提案理由説明を聽取した後、全會一致を以つてこれを承認した

【華府二日同盟】米國政府の援蔣新借款一億弗許容案は、二日上院銀行通貨委員會と下院貨幣銀行委員會の合同會議で承認を得たが、會議は特に秘密會とされ、ハル國務長官から政府の一般對重慶政策に就き、又モーゲンソー財務長官から財政援助案の詳細に就き夫々説明を行つたと謂はれる、會議終了後、ハル長官は記者團と會見し「新借款の意義は極めて重大である、支那が遂行しつゝある事業を援ける爲には現在の處、尠く共我々はこれだけの事は出來るのである」と語つた、更に記者團より重慶空軍使節毛邦初の來訪と關聯して米國政府は、蔣政權が新借款を軍用機其他の軍需機材購入に振り當てるのを許す方針であるかと質問したが、これには返答を拒んだ、尙法幣安定資金設定の詳細は嚴秘に附せられてるが、兩院委員會筋から洩れる處では、新借款の設定に對し蔣政權は、金を擔保として積立てる必要は無いと謂はれてる

【紐育二日同盟】UP來電に依れば、米政府は一億弗對支新規借款援助供與の發表に引續き、武器軍需品の對支供給强化を企圖し、その具體策につき、目下滯米中の重慶側軍事使節團と協議中で、支那側は日本の空爆に對する滇緬公路防備强化が焦眉の急なりとし、米軍事當局に最新式戰闘機の讓渡方を要望してると謂はれる、これに對し米國としては自國國防强化と對英援助の振合上目下米國で製造される最新型戰闘機の讓渡には尙若干の難色を示してるが、陸軍當局では歐洲戰爭の結果、第一線機としては稍々見劣りありとされる程度の戰闘機を支那側に讓渡する事には反對では無いと見られてる、而してこれが具體的措置としては最近フイリッピンに派駐された米空軍部隊の若干機を重慶に賣り渡す事となる模樣で、此の場合、米國が艦齡超過驅逐艦五十隻を英に讓渡した場合と同樣、陸軍から一旦民間會社に拂下げ、民間會社から支那側に賣り渡すと云ふ形式を採る事とならう

海空軍の前進基地に

多種兵科を網羅 米に特殊二箇師團編成

新防備大隊を置く

【紐育二日同盟】ニューヨークタイムス紙が二日の紙上で同紙海軍記者が華府で確聞したものとして報ずる處に依れば、米國海兵團では陸軍と協同して目下戰車、裝甲車隊、飛行隊、落下傘部隊、步兵隊、野砲隊等よりなる世界に類の無い特殊兵團二箇師團を新に編成中で、其の一箇師團はクランテーコ（バージニア州）他はサンヂエゴに本部を置き、艦隊主力の一部とし、リチャードソン聯合艦隊司令長官の指揮の下に屬せしめる事になり、又これとは別に六箇の防備大隊と稱する新單位を設け、フラタナモ（キューバ）サンジエゴに各一箇大隊パライス島ハワイに各一箇大隊夫々編成させて居り、これ等各大隊の訓練の主なる目的は、空軍又は海軍の前進基地の占領又は防衛にあると謂はれる、右華府電は新師團及び防備大隊の內容を左の如く説明してる

（新編師團）一箇師團の兵員は一萬一千名で、次の如き多數の兵科を有してる

一、四百名を以て組織する落下傘部隊
一、步兵三箇聯隊と野砲一箇聯隊よりなる基本部隊
一、爆擊、偵察、戰闘各種を合せて百二十機よりなる飛行大隊
一、十二噸半の輕戰車七十二台よりなる戰車大隊
一、裝甲車隊及び自動自轉車隊を有する偵察部隊
一、高射機關砲三十七ミリ對戰車砲等を備へる特殊兵器大隊
一、この他老舊驅逐艦を改造した軍用輸送船六隻及び戰車上陸に必要とする舟艇を所屬させる

防備大隊各大隊は陸軍標準三インチ高射砲、海軍沿岸用五インチ砲各十二門、高機關砲及び機關銃各二十四門、及び機關銃各二十挺を有するものである

時の話題

◇一時目醒ましかつた獨伊の外交攻勢により、バルカン方面は固より、スペインもソ聯も樞軸の傘下に入るやの形勢に見られてゐた。然るにギリシヤへ侵入したイタリー軍の戰果甚だ思はしからず、一進一退の苦戰中であり、トルコは英國側必死の策動奏効したものか、なか〳〵獨伊へ靡いて來ない。獨英双方を見較べつゝ日和見の態度だ。この間隙狙つたソ聯は、トルコ、ユーゴースラビヤ、ブルガリヤに働きかけてうまい處を掴まんとしてゐるもの、如く、ルーマニヤは鐵衞團、皇帝派兩派間の爭ひで大混亂に陷つてゐる。スペインはどうかと見れば、何時の間にか英國と手を握り、財政上の協定が成立して、昨日マドリッド駐在英大使とスネル外相との間で調印が終つたとユーピー電は報じてゐる。而して傳へらる、英西協定の內容なるものは次の如きものだ。

英西兩國の本國及び其植民地間貿易に對する支拂ひは總てポンドを以て行はれ、英國はスペインに對して多額のポンドを貸附けた上、スペインより多量の物資を受取る。從つて英の海上封鎖からスペインを除外する等である。これは單なる通商財政的の協定と看過は出來ない。通商協定成り、有無相通の途が拓けた。それ自體既に友好關係を意味するからである。英國と雖も世界君臨と大英帝國の誇りはなか〳〵捨てられない。獨伊の外交大攻勢に對抗して懸命に喰ひ下り、必死の挽回策を講ずるのも無理からぬことだ。歐洲に於ける獨對英の外交戰もこゝ暫く押しつ押されつ續くのではあるまいか。

◇英國食糧相ウォールトンは昨日マンチエスターに於て、今後英國は全果物類殊にオレンヂの輸入を禁止する旨發表してセンセーションを捲き起した。その理由は、英國今や超非常時下であつて、果實などを輸入する餘裕がない。船舶は悉く戰時必需品の輸送に用ふべきであると、ナタールを目前に控えての果物輸入禁止は英人間に相當こたへるらしい。

天羽大使 歸國の途へ

【羅馬二日同盟】天羽大使は二日午後二時半、政府官民の歡送裡にローマを出發、伯林に向ひ歸國の途についた、同大使は伯林に數日間滯在、去る三十日夜伯林に到着した堀切新駐伊大使と事務引繼を行ふ筈

日米親善にも耳を傾ける必要あり

元駐日大使 ウイリアム氏演説試む

【ピッツバーグ二日同盟】去る三十日、ルーズベルト大統領が一億弗對支借款の供與を發表して米國の反日態度が愈々露骨となりたる折柄、元駐日大使ウイリアム・キャッスル氏は二日ピッツバーグに於て一場の講演を試み、日米友好關係繼續の必要を力說して次の如く述べた

米國が現に採りつゝある對日態度は日本を獨伊側に走らせるばかりである、米國として日本の對支行動を容認する事は困難であるとしても、日米親善關係を繼續しようとする提案には、もつと耳を傾ける用意があつて然るべきである

危局に直面の重慶陣營 遠地滯在要人續々參集

抗戰力の强化計る

【香港二日同盟】我が國民政府承認に依つて重大危局に直面した重慶政權は、連日に亘つて重大會議を開催する一方和戰問題に關し、日和見的態度を採つて來た要人連に對し至急重慶入りを慫慂、抗戰陣營の强化を計つてるが、事變勃發以來香港に滯在して蔣介石累次の招致にも拘らず重慶入りを肯じなかつた監察院副院長許崇智も條約調印の三十日蔣介石の最後的歸還命令により、杜月笙を同伴重慶に向つた、從來其の態度を注目されてた陳截祥、李振武等も既に重慶に參集してる模樣である

巨額の借款 結局名目倒れか

【香港三日同盟】日華國交基本條約調印と日を同ふして發表された米國の一億ドル援蔣借款に就て外人側通信は、誇大にこれを宣傳してるるが、確かなる筋の消息に依れば、斯る巨額の借款は實現的には履行不可能で、恐らく名目借款に墮する他はあるまいと謂はれてる、即ち一億ドル借款の內容は、數個の部分に分れてをり、各部分に就き逐一交涉審議を重ねる事を要し、又クレヂットに依る支那側の所要軍需品の購入並に輸出物資に依るこれが返濟に關しては各々期間を分ち、且つ各個に分類されてあるので內容頗る複雜にして、交涉が順調に進捗しても、明春二、三月頃にならなければ、果して借款契約に調印の運びとなるかどうかも判明し難い性質のものであると謂れてはゐる

郵船箱崎丸 半年振り横濱へ歸る

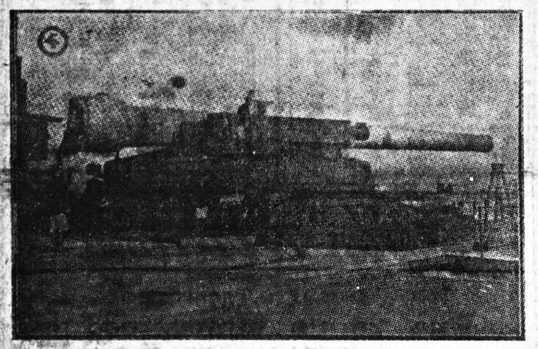
【横濱三日同盟】郵船歐洲航路箱崎丸は（一〇四一三噸）去る六月二十八日橫濱出帆、ケープタウンを迂廻九月四日リスボンへ入港、同二十八日同港出帆、途中バーブダ島で英海軍の二日間に亘る嚴重な檢査を受けニューヨーク經由、半年振りで三日、午前六時橫濱に入港した

科學の驚異

長距離砲の話【一】

三十二里飛ぶパリ砲

長射程砲とは讀んで字の如く射程の長い砲。すなはち遠くへ彈丸の屆く砲をいふのであるが、しからば具體的にどれくらゐの距離を長射程と稱するのか、これは問題である。數百メートルしか飛ばなかつた昔の大砲にくらべれば、今日の大砲はすべて長射程だといへる。日淸、日露の戰爭のころ、五六千メートルしか飛ばなかつた野砲が、今日では一万メートル以上一万四、五千メートルも飛ぶからはるかに長射程になつたといへる。また第一次大戰に獨軍がパリを射擊した長射程砲。また今度の大戰でオランダ、ベルギー、北佛海岸からロンドンを射擊するといはれる獨軍の長射程砲。これらは文字通りの長射程砲、むしろ超長射程砲といふべきものであらう。しかし今日長射程砲といはれるものの中には、射程四万メートル、五万メートルくらゐで、ドーヴア海峽を越て擊てるものも入れていゝと思はれるのであるが、これくらゐの射程の大砲は今日の各國の技術のレベルをもつてすれば別にむづかしいものでなく、驚異的なものとはいひ難いので、讀者諸君の興味を惹くと思はれる超長射程砲の方について述べることにしよう。



ベルタ砲

話の順序として先づ第一次大戰に獨軍がパリを砲擊して世界を驚倒させた超長射程砲の元祖、ベルタ砲から述べよう。

但このベルタ砲といふ名前は、ドイツではリエーヂュを砲擊した四十二センチ砲の方を指していつてゐるやうであつて、この超長射程砲の方はパリを射擊したといふのでパリ砲・洒落てパリジエンヌなどといつてゐた――さてこのベルタ砲ことパリ砲は最大射程百二十八キロ、里にして三十二里、すなはちパリを距たる百二十八キロのところから射擊をしたのである。汽車の時間表を開いて見ると、沼津の驛が東京から百二十六キロ二とある。しかし大砲の線は汽車の線路のやうにくねくねと曲らないで眞直に飛んで行くから、東京から擊てば靜岡附近まで屆くだらう。今度の大戰に出現を豫想されてるドイツ軍の超長射程砲は、これとはまた比較にならぬほど遠くまで飛ぶが、これは未だ眞疑のほど不明である。パリ砲が百二十八キロ擊つたのは確かな事實だから、先づ今日とても長射程のレコードホルダーはこのベルタ砲こそパリ砲といつてもよからう（つづく）

（寫眞は長距離砲）

東京爲替

東京爲替變らず濱糸前寄り落一三六四、一三七二、一三七五、一三七五

英當局より SOS

恐怖の大西洋上 英商船隊頻々擊沈さる

米國政府に救ひを求む

【紐育二日發】UP電によれば、アイルランドより四百哩の北大西洋上にて十隻より成る英商船隊は獨潜水艦に襲擊されSOSを發してるが、內五隻は既に擊沈され二隻は危險に瀕してる、尙スコットランド沖及びノールウエー沿海にある英商船隊も獨逸急降下爆擊機に空襲されSOSを發してる

【倫敦二日發】ロイテル電によれば、昨日スコットランド海岸に於て英驅逐艦スターペー號が暗礁に衝突沈沒、サターデー號は擊沈された、これにより開戰以來英驅逐艦は三十隻を失つたと英海軍省より發表された

【紐育二日發】ロイテル電によれば、最近獨伊海軍が大西洋上に出沒して英國商船隊が續々として被害を蒙り、米加方面向け航海が危險であるので、英海軍當局は米國政府に對し一、英國向け物資は米汽船に積み込んでアイルランドまで屆けて貰ひたい、そこで英船に積み替へて本土へ送る二、目下米の各港に抑留中の獨逸船二、伊太利船二十七、デンマーク船三十四、佛船十二、ノールウエー船八隻の全部を英國へ引渡して貰ひ、その船で英本土への物資輸送に充てたいと申込んだと云ふことである

―(寫眞危險を冒しカナダへ向ふ英商船隊)―

泰・佛印 共に國境を閉鎖

【ハノイ二日同盟】泰國、佛印間の紛糾は益々悪化し、遂に兩國空軍の爆擊應酬にまで發展、泰國側では既に國境を閉鎖したが、佛印側もこれに應じて、この程全國境線を閉鎖した

電報

◇ペタン佛首相はヴイシーにある佛政府をベルサイユへ移轉すべく準備中なりと

◇汎米海軍會議は、各國代表から提案あつた三十八件の內十二件を可決した

◇最近ポーランド及びルーマニヤにて味をしめたソ聯が、今度またブルガリヤ、トルコユーゴースラビヤに働きかけ甘い汁を吸はふと策動してゐる

◇目下歸朝中の駐英米大使ジヨセフケンヂーはル大統領に辭職を申出たので現駐佛大使のレーヒーが任命された

◇米國太平洋岸にある兵器火藥工場數十ヶ所に爆發、ストライキ、多量ダイナマイトの紛失等不穩事件頻發に鑑み、米當局は今後サボタージュに出でたものに十ヶ年の體刑、又は一萬弗の罰金に處する旨發表した

あばれ大名（[illegible]映畫化）

久我荘多郎

倉藤秀彌 畫

（二百六十七）

（どくろ船）

盛衰一路（二ノ四）

この時――。

庭に蠢く一つの影があつた。まるで、犬か猫のやうに、身を屈めてその緣際にうづくまつてゐるのは、さつきから部屋のうちの話の模樣を、一盜み聞いてゐたのではないか？

德兵衛が奥へはいつたのと一緒に、その黑い影もソッと動いて、生垣の向うへ去らうとする。

風姿は、この吹上園の庭師であるが――よく見ると、日燒けした顏、頑健さうな五體それは、鳴門の海あたりを若菜探りに化けすましてゐた荷拔屋の若者で浩齋老人とは昔馴染の舵取り伊太八の倅、彌吉であつた。

――そんな敵が、さうした手近なところに潜んでゐたとは知らず、部屋の中では佐分利一學、

「おい、鱗七」

「へイ」

と、振り仰ぐ鱗七に、

「お前は、阿波へ行つてゐる横溝半馬や大摑さんに、すぐ歸つて來るやうにと、急飛脚を立てゝ來い」

「といふと、もう大三郎を迫はねえんですかい？」

「かうなつた以上は、追ふまでもない。向うから來るだらう」

「あつしたちは、どうなりますんで――？」

「濱につないである明星丸に乘つて、一先づこゝを發つんだ。だから、飛脚を急がせろよ」

「へイ。ぢや行つて來ます」

そゝくさと出て行く鱗七を見送つてから、一學は、何事かを苦慮するもの、やうに、ぢッと沈思する。

床柱に身を凭せて、腕を拱いて――そのまゝの姿で一刻あまり……。

「先生行つてまゐりました」

と、鱗七が歸つて來てみると、一學のまはりには、仄暗い夕ぐれが立ち籠めてゐる。

「お……どうなさいました。行燈の支度もなさらないで」

「――うむ」

「ねえ、先生。あッしは飛脚屋への道々、ふと慰ひ出したんですが、大阪の店は、どうなすつたでせうね。鐵三兄哥たちから、ちかごろ便りがありませんが、そいつが、何とも氣がゝりで……」

と、身を寄せた時、ふいに陰氣な夕明りのたゞよふ奥の部屋にあたつて、異樣な呻き聲が洩れて來た――。

妙な呻きを聞いて、鱗七は

「やッ……」

顏色を變へた。そして、われ知らず、一學の膝を摑んだその手は、意久地なくブル〳〵顫へてゐる。

「セ、先生――」

「旦那らしいな」

と、一學は拱いた腕を解いて、鱗七の手を拂つて、

「さつきから、ひどく神經を起してをられたやうだから、それ故の囈言だらう。旦那も氣弱くなられたものだ」

「……」

「鱗七。ちよつと行つて、搖り起してあげろ」

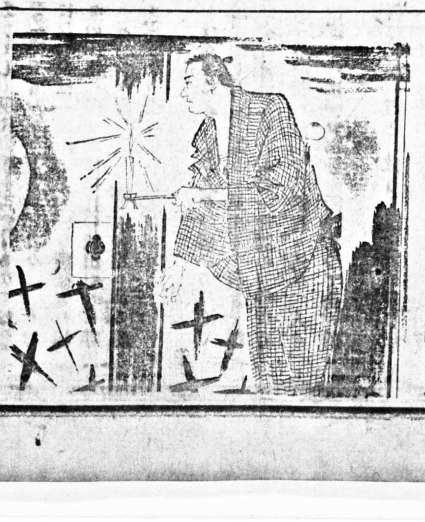
「へイ」

「行燈に、灯もはいつてをらんらしい。それもあるんだ」

「ぢや、手燭を持つて行つて灯を移して來ませう」

「うむ、さうしろ」

手燭をかざして鱗七は、なんの氣もなく次の部屋へはいつて、しきりに呻されてゐる德兵衛の寢所の襖を、ことさら、忍びやかに開けてにじりすゝんだ。



たゞ時期の問題
獨政府の國民政府承認
日本の立場絶對支持

【伯林二日同盟】獨政府首腦部は日本の國民政府正式承認に呼應する外交措置につき協議を重ねて居り、これに積極的態度を示すのは時機の問題と見られてゐる、目下の處尙ほ多少の時日を要する模樣で獨外務當局は二日、外人記者團との會見に於て非公式に次の如き見解を表明した

南京政府承認は日本政府と南京との問題ある、兩國の關係は三國同盟に規定され居り、勿論獨逸としては日本の東亞新秩序建設に全幅の支持を與へるものである

尙政界消息筋では日獨兩國の政策は一定してゐるので、獨政府は遠からず南京政府を承認するものと豫想してる

アメリカの生糸需給統計

【東京三日同盟】紐育商品取引所發表、十一月中のアメリカ生糸需給統計（單位俵）、

輸入高	
日本絲	四〇二〇四
歐洲絲	ナシ
ロシア絲	ナシ
廣東絲	二三一七
上海絲	五八八六
合計	四八四〇七
月末在貨高	
日本絲	四八七七七
歐洲絲	五
ロシア絲	三九三
廣東絲	三二六一
上海絲	七八〇〇
合計	六〇三三〇
工場取引高	
日本絲	三〇二〇八
歐洲糸	三三一
ロシア糸	ナシ
廣東糸	一五二二
上海糸	四四一三
合計	四六三七四
紐育向け輸送中	二六二〇〇

岡新少將
總力戰研究所入り

【東京三日同盟】前橫鎭參謀長岡新海軍少將は、三日附け官報を以て、左の如く總力戰研究所入りが發令された

海軍少將正五位 岡新
任總力戰研究所員

三井物產
龍田山丸
野嶋岬沖で沈沒

【東京三日同盟】三井物產龍田山丸（一九九二噸）は岩手縣宮古より大阪に向ふ途中、二日午後十時五十分頃野嶋岬沖合ひ三哩の地點で暴風の爲め遭難 S・O・Sを發したので附近航行中のボルドー丸阿蘇丸が直ちに現場に急行したが、遂に三日午前三時〇五分沈沒した、但し乘組員三十三名は全部漁船に救助された

東洋紡績社長

【東京二日同盟】東洋紡績社長庄司乙吉氏は今回社長辭任、後任は現副社長種田健藏氏に決定

坂本龍起氏
ペルー ボリビヤ 公使に決定

【東京二日同盟】外務省では近く左の人事移動を發令する

興亞院華北聯絡部文化部長 坂本龍起
ペルー兼ボリビア公使
興亞院華北聯絡部書記官 宮崎申郎
イラク公使へ

英國經濟使節團
ブエノスへ着く

【ブエノス・アイレス二日發】アヴイラ・スター號で、當市へウエリントン侯に率ゐられる英國經濟使節團一行が到着した、一行は直ちに副大統領カスチーロ氏を訪問した

チリーに大地震
損害莫大の見込み

【ブエノスアイレス二日】ラプラタ及びブエノスの地震計は、チリーのコキンボ、ラセンナ、イラツペル市邊りに起つたであらう地震を感受した

【サンチヤゴ二日】コンセプションよりの情報に依れば、同市は今日十二時十分、大地震に襲はれた、損害は莫大である

明年度
生糸の消費額 近く數量決定せん
農林、商工兩省結論急ぐ

【東京三日同盟】農林、商工兩省では打合を續行して來た生糸の商取引高に就て一應結論をつける事となつた、即ち生糸の數量的消費額は明年度に於ける需給と用途別規格生產の前提をなすものとして農林、商工兩省はこれが具體的數量の決定を急いでゐるが、混紡用特殊繭の生產數量と價格につき兩省間に尙ほ相當意見の懸隔があり商工省側特殊繭二千万貫を要求し、且つ價格も內需混紡の見地から四円五十錢程度を適切と主張してゐるが農林省側は輸出に彈力性を持たす見地から特殊繭の生產數量は出來るだけ小量を希望し、價格に於て商工省との間に二円近い開きがあり、二千万貫程度の增產をはかるには六円程度を絕對條件として主張してる模樣で數次に亘つて折衝したが、此の點で意見の一致を見なかつたものである、然しながら、商取引額の樹立は目下農林省が成案を進めてる蠶糸統制案の前提をなすものであるから、先づこれが決定を急ぐ必要があり、四日の協議會で一應の結論をつけたい意向である

十三都市生活指數
何れも高騰を示す

【東京二日同盟】商工省發表昭和九年四月乃至十年三月の一ヶ年平均賃金を基準とせる東京以下十三都市の賃銀指數は十月百四十九・九を示し、これを前月に比すれば〇・九前年同期に比すれば十二・〇の各パーセントの高騰に當る

セメント共販會社
販賣機構の改革

【東京二日同盟】セメント共販會社では、販賣機構改革のため淺野、小野田以下七社より成る販賣機構改善委員會を設置し、先般來同委員會に於て愼重協議中であるが、大體決定を見るに至つたので、愈よ五日頃、東京に於て開催される同社協議會に附議最後的決定を行ふこととなつた

獨の爆擊機隊
英本土各地を襲ふ

【伯林一日同盟】獨軍司令部發表

一、我爆擊機は三十日夜ロンドンに對して集中爆擊を敢行、市內に大爆破を生ぜしめ、就中パテイントン、ケンシントン、バターシー等の各地區には大火災が起るのが確認された、又リバプール、バーミンガム、ブリマスなどにも有効なる爆擊を行つた

一、我空軍は一日重ねてロンドン及び海峽對岸諸港の爆擊を敢行、ブリマスには大火災を生ぜしめた

雲南省奧地
錫製造工場粉碎
海鷲連續二日の爆擊

【佛印〇〇三日同盟】南支艦隊報道部二日發表 海軍航空部隊は、本日も昨一日に引續き雲南奧地攻擊を敢行せり、即ち高橋大尉指揮の爆擊隊は、雲南省獻炎の錫製造工場を攻擊、甚大なる戰果を收め、昨日の爆擊と相俟つて殆ど灰燼に歸せしめたり

Dr. Alarico Franco Caiuby
ADVOGADO E
Tsuguo Kishimoto
TRADUTOR PUBLICO
Escritorio: R. José Bonifacio, 233
3.o and. salas 310/312 - Tel. 2-1137
C. P. 1124 São Paulo

法律一般 飜譯
アラリコ 岸本 法律事務所
公證飜譯人 岸本次男
顧問 アラリコ・フランコ・カユビー
事務所 聖市ジョセ・ボニファシオ街二三三番 三階三一〇—三一二號室
郵函一一二四 電話二—一一三七

壓搾空氣飛行機
六二五哩の好記錄
イタリーの試驗飛行成功

【ローマ二日發】信ずべき筋の情報に依れば、シュナイダー杯所持者たる當國の著名試驗飛行家マリオ・デベルナルジ大佐は、先週の試驗飛行に於て、新型の飛行機に依り時速六二五哩を出したが、特筆すべきはこの飛行機で、從來の如く推進機を備へず、壓搾空氣に依つて動くものである、ムツソリーニ首相は、同氏並に助手に謁見を許したが、當局では目下、この型を戰鬪用、商業用として研究中である

ギリシヤ戰線
伊軍猛反擊に出る

【羅馬二日同盟】伊軍司令部發表

ギリシヤ戰線の我軍は、全線に亘り猛反擊を開始し、就中第九、第十一兩軍團前面の敵は甚大な損害を受けて退却した

ランデツク教授
ウルグワ井で講演

【モンテビデオ二日發】リオ生理學研究會長ランデツク教授は現在當モンテビデオ市に滯在中であるが、同教授は軍事航空衞生本部に於て「生理學の航空醫學への應用」と題する一場の講演を試みる事になつてゐる

注目のユーゴー
樞軸側に接近態度
ヒツトラー アントネスコ 兩氏の會談終る

【ニューヨーク二日同盟】二日當地に達したブカレスト電がユーゴースラビヤ官邊筋の情報として傳へる處に依ればユーゴースラビヤ外相マルコビツチ氏は先週來ドイツ訪問ヒツトラー總統と會見した結果、ユーゴースラビヤ今後の動向は頗る注目されるに到つた、一方ベルリン電に依れば樞軸外交の活動に關し、獨官邊は努めて愼重の態度をとり二日の外人記者團との會見に於て

ドイツとユーゴースラビヤの外交關係は、接近しつゝありや

との質問があつたのに對し、獨外交省スポークスマンは、

普通の外交機關を通じてする以外、特別の接觸があつた事は聽いてゐない

と答へてゐる

胃腸に
エビオス

滿洲國全權
日華兩代表を招待

【南京二日同盟】臧、滿洲國全權は一日夕、當地東亞俱樂部に日滿華共同宣言調印祝賀の晩餐會を開き阿部・汪兩代表、西尾總司令官、島田司令官等三百餘名出席、盛大な祝宴を催した

伯國練習船サルダニヤ號
ヴエネズエラ首都に着く

【カラカス（ヴエネズエラ）二日】ブラジル大使バーロスピメンテール氏は秘書帶同、伯國練習船アルミランテ・サルダニヤ號の午餐會に臨んだ同大使は明日行はれる士官五名、水兵、警察署員五名、百五十名の乘組員のカラカス訪問に就き打合せた、サルダニヤ號は昨日公式に陸、海大臣の名を以て、海軍兵學校長ロレンゾ大尉に接待された

チリー 共產機關紙
の暴言
西國政府抗議發す

【サンチヤゴ・ド・チリー二日發】スペイン政府職員スネル・フエレル氏は、公式にチリー外務大臣に宛て

チリー共產黨機關紙「エル・シグロ」のフランコ政府攻擊に依り生じた兩國間の不快を一掃すべき適當なる措置を講ずべき事を促した

R. Monteiro & Cia
CASA MATRIZ E ESCRITORIO
Rua 25 de Março, 533
Caixa Postal, 1646 - Telephone, 2-4388 - São Paulo

Casas Filials:
Rua José Bonifacio, 43
Esq. Bocayuva
Telephone 2-5510
Rua 15 de Novembro, 12-18
Telephone 2-1781
Av. Rangel Pestana, 1475
Telephone 2-9837

IMPERIAL CASIMIRA
MARCA REGISTRADA

Casa Filials:
Rua Boa Vista, 199
Telephone 2-3688
Santos
Rua Gen. Camara, 79
Telephone 5657
Rio de Janeiro
Rua Uruguayana, 106
Telephone 23-5067

◆弊店は伯國最大の反物店で內外優秀のカシミーラを豐富に仕入れて居ります
◆尙歐洲よりプリン、麻、パームビーチ、トロピカル等本年夏向きとして種々多量に仕入れました
◆アズールマリニヨのタルジア地一米十八ミル以上
◆弊店は國產優秀カシミーライムペリアルの總代理店
◆地方より御出聖の折は是非御來店の程を
◆尙地方へは見本をお送り致します

夏向洋服
特別大奉仕

麻地亞熱帶向用地洋服各種品質も色合も仕立も御氣に召す事百パーセント。御贈答用品は弊店で、帽子、ネクタイ、シヤツ、靴下、ミシン 靴等々。
御値段は大勉强
尙月賦部がありますから御利用下さい、其際は日本人店員が親切丁寧に御世話致します

レンネル商會
日本人部

Filial
RENNER
RUA S. BENTO, 51
AV. RANGEL PESTANA, 1563
SANTOS: R. GENERAL CAMARA, 15

農家に缺く可らざる
タバコ粉末

◆タバコ粉末の用途は非常に廣いものです
◆鷄舍の羽蝨驅除として此れ位安くして有効のものはありません
◆野菜作りは此の粉末を利用しニコチナ溶液を作り蚜虫を退治する
◆寢室の床の蚤等の退治
◆牛、犬に寄生するベルネを殺すには此の粉を煮詰めて少しのクレオリナン牛脂と混じて塗る
◆犬、猫の蚤除として
◆寢室の蚊除として燻烟劑の一つ

タバコ粉末 キロ 一、二〇〇

時報商事部

「生長の家」に就て

◆十一月廿六日所載の「ブラジル朝日」紙に雨か風か"生長の家"との見出しで掲載された記事に就き伯國支部としての責任上から釋明致す次第であります。

◆敎化團體「生長の家」は祖國に於て今年四月一日より實施されたる宗敎團體法に依つて立派な宗敎であると認められて文部省の管轄に入つてゐるのであります。聖市の各書店、全伯有名店に於て今尙販賣中の「生命の實相」の書籍が賣切れ／＼の狀態で續々入荷されてゐる事實が文部省の許可濟みである事を實證してゐるのであります。

◆「生命の實相」の書籍が立派な敎へであり眞理である事は前記「ブラジル朝日」も認めてゐられるのでありまして即ち見出しに「生命の實相」を履き違へる人々とあるのを見てもよく解るのであります。

◆私共は伯國支部として日本政府の認めた宗敎をその書「生命の實相」の敎義に隨つて各地に提唱さして戴いた敎義の正しき事實は各地に人生苦を超ゆる人々が多く更生の意氣に燃ゆる人々が續出して居ります。

◆病氣の全快を求めて私共を訪ねた人々は私共より「生長の家」は病氣を治す處ではありません。病氣を治して欲しくば醫師か藥局へ行きなさい」と一喝された方が多いのでありまして醫者も藥も不用等との暴論は未だ嘗つて御傳へ致した事實はなく、「生命の實相」地の卷又は全集第一卷の第一頁に明記の如く醫師にかかりたい方はその醫師に全幅の信賴を傾けて拜みなさい。藥は拜んで服用なさいと申上て居るのでありまして現代醫學を否定するのではないのであります。これは私共の講演を一回でもお聞き下さつた方々はよく御存じであります。私共の講演をお聞きになり又は「生命の實相」を讀破され精神の轉回に依り難病を超へられた人々の如何に多きかは私共の我田引水に非ずして各地に無數にある事實でありスバラシキ賣行きを見ても合點される處であり當支部宛感謝狀も机上山をなす程であり全部保管致して居るのであります。

◆ブラジル朝日所載の狂信云々とありしは餘りによくなる人々の多いのに深く眞理も極めずして所謂鵜の眞似する烏の如く刀の刃渡りを見てその信念を極めず、表面上の眞似をなすと同樣病氣丈けを治したいとの一時的の利益信心を求められし人々であつて「生長の家」の敎義には非ず所謂履き違へた人々であり若し左樣の事實ありとするなればそれは一少部分の話であつて全般的ではありません。

◆私共はブラジル朝日紙の記事に對し何等反撥の意志に依りこゝに釋明するのではありません。寧ろ御忠告と心得へて此の紙上に於て深く感謝の意を表する次第であります。

◆伯國の國敎たるカトリックと生長の家とは何ら相反する一個所たりともなくカトリックの敎へ即ち生長の家の敎なりと私共は提唱さして戴いた。故に基督敎の眞髓をも平易に解說さして戴き同敎の信者より絕大なる歡びで迎へられてゐるのであります。

◆結論として如何に日本政府の認められたる宗敎團體とは云へ伯國政府の許可を得ずしてはとの支部の方針から當局へ申請せしも飜譯不充分の爲徹底せす之偏へに私共の不德の到りとお詫び申上る次第であります。

◆然しながら「生長の家」ならずとも伯國にも多くの日本の宗敎の各宗各派あり各々會を催し日本人には日本人によく覺る宗敎を擴められつゝあるの現狀は同胞諸賢の周知の事實なり。而も「生長の家」とはその各宗各派の眞髓を偏よらず平等に平易に說き各宗各派の爭ひを歸一して大いに和する即ち大和魂の本來の面目に到らしめるの使命を有するのであります。日本人同志相互に相援くるの意味のもとにも日伯親善は宗敎よりその意味からも伯國政府の許可に同胞諸賢の御後援を切に待つものであります。

敎化團體『生長の家』伯國パウリスタ支部
支部長 齋藤繁一
專屬講師 松田大二郎

◆各地誌友諸賢に告ぐ

當局の許可ある迄誌友會及び講演會等一切中止致度存じますので御了承下さいませ。許可あり次第再び各新聞紙上に於て發表致ます 諸賢の御精進と御奮鬪をお祈り申上げて居ります。

中南米向け日本工産品 〝改良工夫が必要〟

研究して、と輸出業者の苦心

人情風俗も

英米の對日經濟壓迫の術策は東亞共榮圏に邁進する日本の輸出貿易に百八十度の市場轉換が行はれ、中南米方面の市場開拓にもそれ〴〵戰士が展示品見本を携帯して本年初頭より市場開拓に奮鬪を續けた事は既報通りであるが、更に日本優良物産・日本の誇る郷土の工藝品等數千點にわたる輸出向き工産品に再檢討を加へるべく我國中小工業者は商工省の後援のもとに展示會を開いてそれ〴〵の輸出地方向きに改良すべく研究に怠りないといはれる、例へばセルロイド玩具にしてもその地の人情風俗を研究して新らしい趣向をこらす等、陶器類では從來東洋風のものは相當輸出されたが洋食器は微々たるものでもと〴〵外國品の輸入を防遏するために製造されてゐたものであるがこの困難を切拓いて斷然輸出に轉換し優良品の製造を開始する等その他に國境なき商品を選び、改良工夫して振興を圖つてゐるものである

繪筆使節 大橋夫妻

個展の蓋けふ開く

內外名士等招き コクテル・パーテー

既報繪筆使節として目下聖市滯在中の大橋了介畫伯エレナさん夫妻は聖市に於ける個展開催の準備を進めてゐたが、昨日漸く萬端整ひ、けふ（四日）から來る十九日まで向ふ十五日間毎日午後四時より同九時まで、バロンデイタペチニンガ街のプレヂオイター（フランス美術展覽會や工藝展のあつた跡）の地階で開催することになつた、出品は大橋氏及びエレナ夫人のもので最初約六十點であるが飾付には同氏とパリーに於いて一しよに勉強したことのある朋友ワルデマール教授が專らこれに當つた

コクテル パーテー

開場に際しけふ午後二時から內外關係者及び內外新聞、雜誌記者等を招待コクテル・パーテーを催す―寫眞は大橋夫妻と最近の作品中の〝姫路城〟

寫眞は大橋夫妻と近作『姫路城』

埋れ行く拓人の足跡【78】

南樹

一代の怪雄山縣

十七

山縣の日本から戻つてからの四五年間は一生の內最も淋しい時代であつた。彼はサリナ以外に全く手を出さなかつた。鳴かず飛ばずと云ふ樣な消極的なことの嫌ひな彼に取つて何もせぬと云ふことは一種の罪惡に等しかつた。しかしそれをどうすることも出來ないのが人生である。かれは悒々として樂しまず、千九百二十四年一月（大正十三年）大往生を遂げた。ブラジルに呼吸することまさに十七年である。

彼の一生を通觀して感じることは、かれの如き人物を入れるべくブラジルの事情が余りに掛け離れ過ぎて居ると云ふことである。かれは失敗しても日本に居るべきであつた。若し日本以外にかれの活躍する天地を求むれば滿洲である。蒙古である。せめて南洋位であつたならばかれの存在は日本國民に取つてもう少し光明あるものであつたらう。しかし眞實にかれの天分を發揮し得る時代を求むれば戰國時代である。塙團右エ門たり、岩見重太郎――、後藤又兵衛たり得たに違ひない。私はかれの風格の內に最も後藤又兵衛らしいものを觀取する。かれは屹度一城の主となり、今日講釋師の飯の種子となつたに違ひない。

彼の生れた現代はかれに取つて悉く矛盾であり、錯覺の交叉であつた。かれが手を延べんとすれば其處に必ず不可抗力的障壁が厳として横たはつて居た。かれが現代に生れた其事が既に一種の不幸を孕んで居たのである。かれのどうすることも出來ない懊惱はそこにあつた。

石橋　恒四郎は在伯同胞中最もかれの座臥居常を知る人である。生れながらにしてかれに接近して彼の仕送りに依つて學校を出たんである。私はかれの山縣觀を求めた。「いや兎に角底の解らない人ですな。私など山縣に向つて居ると威壓されて只ぼうつとなつてしまひます。まあ何ですね、只偉い人ですと云ふより外私の樣な言葉の貧弱な者には形容の仕方がありません」と答へた。如何にも山縣には誰れに向つても威壓する樣なエネルギーがあつたらしい。かれの遣口が專制でやや暴君的な傾きがあつたのはかうして力の潜在に依るものである。大西郷なども無言にして先づ人を屈服せしめる一種の潜勢力を多量に持つて居つたらしい。海興の坂本靖はブラジルにおけるインテリの內で、山縣の所に一ケ月も働いて居た人である、その山縣觀も見逃してはならない。坂本は私の質問に答へて曰く、「一、膽大細心。二、內柔外剛。」の二言に盡と云ふべく、かれは外見非常にがみ〳〵屋で嚴ましいが、他の一面極めて親切に富みたる人であると云つた。

改造　八月號に遠山滿の「人傑を談る」に遠山は四人の同志と鹿兒島に南洲の故山を尋ねた折のことを書いて居る。鹿兒島は大木の伐り跡同然だと云つた後、「……確に西郷のやうな大木は何百年に一本出るか出ないか解らない程のもので、實に殘念なことをしました」と訪問を受けた志士は慨然としたと書いて居る。山縣を西郷に比するのは少しく潜越であるかも知れない。しかし山縣の樣な人物も西郷の如く百年に一本立つか立たないか解らない存在であること丈は確實である。

◎石射大使は去る一日リオ市のブラジル新聞協會を訪問した

◎運營困難となり、一時閉鎖した日本倶樂部では、その後假事務所を互生會に移して居たが、一般に不便の點があるため常盤ホテルに移すべく目下手續中である、近日中に許可が下りる筈であると

◎奧地旅行中であつた海興坂元次席は、去る二日夕歸聖した

◎去る二日サントスでワルテノル・フエルナンデスといふ六歳の子供が運河に落ちて病院に擔ぎ込まれた―子供を持つ親よ、人ごとではない御注意々々々

◎日伯シネマの政一つあんは「御承知の通り非常時日本は目下新体制の爲、全國民一致協力頗る緊張味を以て終始致し居り、自ら敬虔の念に不堪るもの有之候」と日本歸省の通信を寄せた、いづれ明年一月その敬虔の念を胸に、新しいフイルムを携へて歸伯するであらう

◎特に農家では一家に一個是非なくてはならぬ、といはれてゐる「イー治療機」―ところがこれは邦人獨擅と睨つてゐたら何がさて、最近外人間にも大した評判でドン〳〵賣れるといふから面白いものだ

第二回演奏會

アマチユア音樂家一堂へ聲の集ひ

エオリアン倶樂部

聖市アマチユア音樂家連によつて組織されてゐるエオリアン倶樂部第二回演奏會は來る（日曜）八日午後八時からお馴染のサン・ジョアキン街リラ倶樂部に於て催される、台唱指揮者倉數達彌、ピアノ伴奏宮地厚三、同伊藤宮子、バイオリン助奏泉田行敬の外うるはしい咽吐を聞かせやうと一同ハリキリ猛練習を續けて居る、合唱團ソプラノ十三名、アルト七名テナー八名ベース六名の合計三十四名の豪華なプロによつてなされるが、音樂ファンの血を今から沸かせてゐる

伯國から日本へ

マンヂヨカ（十九萬キロ）

本年十月中サントス港から日本向輸出されたマンヂオカ粉は三百キロで、本年一月より同月までの輸出高は十九万九千五百五十キロに達して居り昨年同期中の十万キロに比すれば、殆ど二倍の增加である其他聖州產胡麻の日本向輸出は本年度は昨年に比し、多少の減少を示したが、それでも十月中に五万四千七百キロが輸出されて居る

英巡洋艦に引致さる

伯國汽船イタペー號 乘客獨逸人二十二名

リオ電によれば、ブラジル沿海航路汽船會社船イタペー號よりの無電として、左の如く報じてゐる

同船がサントス燈台を距る十八浬の沖合にて英巡洋艦より停船を命ぜられ、停航するや英艦長は同船に移乘し、南大河、サントス及びリオ港より乘船し、バイヤ及びベレンに向ふ二十二名の獨逸人船客を引致し去つた、同船長はハバナに於ける汎米會議の協定を楯に抗議したが、艦長は三浬外は國際海洋であると答へ、何等の安協も見られず、全乘客は更に荷物の檢食を要求され、二時間後にヴイクトリア港迄の航行を許された

歌姫敏子孃

イタリー行きを控へ ノロエステへ『聲の行脚』

歸聖後聖市でも公演

歌姫長谷川敏子孃は、去る一日夜行をもつて既報の如くパウルー、カフエランジヤ、リンス、プロミツソン、アラサツ・バ、其他ノロエステ各都市へ池邊氏夫妻の案內にて聲の行脚に發つた、円熟の藝と得意の喉を同線の人々にお披露し、來る十日頃歸聖の豫定である、何分ソロカバナ線及びその他の方面にも歩を延ばす筈であつたがイタリー行きの期日が切迫してゐる爲め、準備その他で實現出來なくなり、惜くも次の機會にゆずらねばならなくなつた、聖市では伊太利へ出發前に是非一般公演を行ひたい希望であると

日沖剛氏榮轉

パラ拓支配人へ

けふ空路出發

ブラ拓本部庶務兼拓務係長日沖剛參事はパラ拓支配人に榮轉する事となり本朝空路アスンソン市へ赴任したが、昨日は終日各方面へ退聖挨拶に廻つた尚ほ經理秘書井久保氏は支配人事務引繼ぎ立會ひのため同道した

リンス學園

第九回卒業式

リンス學園では、去る二十九日午後七時より、學園講堂に於て來賓、父兄參列の下に、第九回卒業式を擧行した、山下先生司會山口園長より卒業生牧野弘茂君以下十一名に卒業證書授與、左記優等生に賞の上、狀授與、次いで學園長訓話、經營者代表內山吉藏氏並に本田日會長、小山青年會長、在學總代井上敏子さんの祝辭、卒業生總代牧野弘茂君の答辭終つて卒業生の歌及祝歌合唱同八時半終了した

優等生

四年生―岸本光子、五年生―小池美重子

六年生―榎田次技、牛島かほる、熊坂百合子・林田續子、中村マリア、本田マリア、

高等一年―井上敏子、仝二年―牧野弘茂、水野隆夫、

補習科―野村義人　土野千里

五日から智利で

工藝展示會開催

輸出工藝聯合會では、各國に於て工藝展示會を開催、日本工藝品の世界市場進出を計りつゝあるが、中南米方面には同會から派遣された那須氏が各地で展示會を催しつゝあり聖市でも過般開かれ、可成の成績を納めて退伯したが、同氏は現在チリー國首府サンチヤゴ市に滯在中で、來る十二月五日から同地に於て工藝展を開催する

〝母の會〟

刺繍講習會

聖市〝母の會〟では今日（四日）から月、水、金、土の各四時半からビーレスレノン街同會館に於て日本刺繍の講習會を催す、講師は元神戸女子技藝學校講師內海彌三郎氏、因に會費は二十釬である、希望者はドシ〳〵お出で下さいと

棉の相場

サンパウロ棉花取引所建値

十二月二日　單位十五キロ

	買値	賣値
四級	四三、〇〇〇	四三、五〇〇
五級	四三、〇〇〇	四三、〇〇〇
六級	四二、〇〇〇	四四、〇〇〇

重要商品市況

十二月二日

	買値	賣値
◎パタタ　六〇キロ		
アマレーラエスペシアール	六四、	六六、
◎スペリオール	五四	五六
◎マンヂヨカ粉五〇	三三	三三、五
アルフアフア　キロ	四四〇	四五〇
◎小麥粉一級	四九	五〇
◎砂糖　以下六〇キロ入		
極上	七一、	七二
上等	六八、	六九
◎フエジヨン　六〇キロ		
新△ムラチンニヨ		
スペリオール	五九	六〇
エスペシヤル	六二	六四
ボン	五三	五四
レグラール	ノミナル	
△コーレス　六〇キロ		
ブ・グラード	ノミナル	
ロシンニヨ	ノミナル	
シユシピンニヨ	ノミナル	
△ミリヨ　六〇キロ		
アマレリニヨ	三〇、五	三〇、八
アマレロ	三〇、二	三〇、五
アマレロン	三〇、	三〇、一
△アロースアグリア		
アマレロン		
エスペシアール	七三	七五
スペリオール	六五	六六
ボン	六〇	六一
ブランコ		
エスペシアール	六四	六五
スペリオール	五八	五七
ボン	五〇	五二
レグラール	ノミナル	
カテテ		
△エスペシアール	五二	五三
スペリオール	五〇	五一
ボン	ノミナル	
△メイオ	三三	三四
△キレーラ	三五	三七
◎セボーラ　リオグランデ　一五キロ	一八	一九
◎マモナ　キロ	六三〇	六五〇
◎バニヤ　南大河　二〇キロ	二、三〇	三、三三
◎豚　（オザスコ相場）		
◎ゴールド	三〇、五	
◎マーグロ	二七、五	

蔬菜相場

十二月三日

コチア產組調

	安値	高値
トマテエスペシアル	一五	二〇
プリメーロ	一〇	一五
セグンド	八	一二
レボーリオ	四	八
ピメントン	二	四
パージ	二	四
エルビーリア	五	一〇
ポブリンニヨ	四	五
ペピーノ	八	一二
人參	八〇レース	
ベタタ	一〇	一六

味と香りの茶ツピー

募集
メツサドール　五、六名
見習子供　二、三名　拾四、五才以上
チンツラリーア・エステレーモ・オリエンテ
ドミンゴス・デ・モラエス七〇
六電車の終點、電車33・31・30

急募
職人　一名
見習　一名
チンツラリーヤ・パライゾ
アラメイダ・サントス街四八
牧

尋ね人
熊本縣鹿本郡米町御宇田村
稗田鶴吉樣
右の人の所在御存知の方はお手數乍ら御一報下されば幸ひであります、
北パラナ、ピリアニツト驛
郵函拾六番　小林李白

伊藤又吉兄
至急左記迄來て戴き度し
Av. Celso Garcia 4249
マリオ

時間と燃料の經濟
水管式風呂ガマ
電氣工事、ガス熔接
オフシイナ吉本
聖市ロンデ・デ・サルゼーダス一〇五

プレシデンテ・ブルデンテ
眼科專門
ドトール・ヂ・ミゲール
トラホーム及び併發症手術
檢眼
ルア・ニーロ・ペサーニヤ街　五五　電話二七六番
（ホテルムニシパルの側）

紫外線、小兒科專門
ドトール　クツペルチーノ
ソロカバナ線　プ・ブルデンテ市
ニーロ・ペサーニヤ街三十五番地
（片岡ホテル側）

急募
職人　一名
見習　三名
高給優遇す
チンツラリア・コンテンテ
ボンパストール街一一五
イピランガ區

Dr. R. P. Silva
Cirurgião Dentista
齒科
大久保
聖市イルマン・シンプリシアナ街一〇〇番二階

尋人
宮城縣柴田郡富岡村出身
寶田宇三郎
舊姓　佐藤カツヱ
郷里より依頼あるに付右兩人の現住所左記へ御知らせ下さい
Rua São Joaquim 216 S. Paulo
赤間みちへ

八十島豊氏ニ告グ
昭和十五年十二月七日迄ボンペイア青年會事務所迄大至急出頭相成度

公認　サンパウロ興信所
各種調査、秘密、迅速、正確
マルチネリ十〇階一〇二九
電話二・〇三一三　郵函一六一

粂田齒科
ピネイロス、カルデアル
アルコヴエルデ二六五一番
午前八時より
午後八時まで

法律事務　一般及飜譯
木下事務所
聖市ジヨン・メンデス廣場
リベルダーデ角八階八四一―八五號室
郵函一三八六

蓄音器とレコードは
專門のアイチクで
古レコード高價買入れ
及び附屬品の修理
三浦愛蓄堂
R. DR. LUND 29

AO GARCIA
O IMPERADOR DA MODA
RUA DIREITA, 137　S. PAULO
洋服又は婦人服
水浸しの驗しの上ソブ・メデーダで　138$000で
新調可。廉き事此の上無し。

ナタール聯邦ロテリヤ
五千コントス
デレイタ街二番
A PREFERIDA
NATAL - FEDERAL
5MIL Contos
ローダ　ダ・ソオルテで
本月31日 又々30コントスの家屋懸賞無料提供！

決定！
情緒豊かな…日本製の羽瀬のフオーリンニヤ

御下命は是非!!
聖市イルマン・シンプリシアーナ一〇二
羽瀬商店
電話二―一五七五
郵函二一A

尋人廣告

左記ノ者等ノ現住所承知致度ニ付本人又ハ御存知ノ向ハ至急當館迄御一報相煩度

記

長野縣南安曇郡穗高町四二五六番地　推定住所　ブタンタン區ジヤグアレー耕地　赤羽安勝（所在調査願）
同　ますみ
大阪府北河內郡守口町字土居六九二番　貫志米楠（同右）
秋田市牛島町字戻塚九番地　昭和九年九月廿二日サントス港着　田口ミエ子（同右）
沖繩縣國頭郡羽地村字振慶名　花城清長（同右）
秋田縣南秋田郡豐川村　宮田金一郎（同右）
福岡縣人　橫溝國太（同右）
廣島市東新開町　下村節子（同右）

昭和十五年十一月二十九日

在サンパウロ　帝國總領事館

大阪商船
發着廣告

日本へ

船名	經由	發		着	
あしびあ丸	アフリカ經由	サントス發	十二月十一日	神戸着	二月六日
西阿丸	パナマ經由	サントス發	一月三日	横濱着	二月廿一日
あふりか丸	アフリカ經由	サントス發	一月八日	神戸着	三月六日
もんてびでお丸	パナマ經由	サントス發	一月廿七日	横濱着	二月十七日

日本より

船名	經由	發		着	
あらびあ丸	アフリカ經由	神戸發	九月廿七日	サントス着	十二月十日
西阿丸	パナマ經由	神戸發	十月三十日	サントス着	十二月十七日
あふりか丸	アフリカ經由	神戸發	十月廿九日	サントス着	一月七日
もんてびでお丸	パナマ經由	横濱發	十一月廿四日	サントス着	一月八日

西阿丸は一等船客のみ御引受申可候
詳細は弊社左記代理店へ
サントス　伯剌西爾大阪商船株式會社
(Soc. de Navegação Osaka do Brasil Ltda)
Rua Cidade de Toledo, 31 Santos
聖市　伯剌西爾大阪商船會社出張所
(Soc. de Navegação Osaka do Brasil Ltda)
Filial de São Paulo
Rua da Quitanda, 82 - São Paulo
リオ　WILSON, SONS & CO. LTD.
Avenida Rio Branco 37 Rio de Janeiro
大阪商船株式會社

Redação - Rua Fagundes, 196
Telephone 7-4670
Caixa Postal, H

Director M. Samesima

NOTICIAS DO BRASIL

Proprietario SEISAKU KUROISHI

Assignatura Anno ...... 60$000
„ Semestre ...... 30$000
Numero de dia ...... 300 reis

Gerente S. Kuroishi
Redator-chefe M. Yendo

ANNO XXIII — S. PAULO — QUARTA FEIRA 4 de DEZEMBRO de 1940 — DIARIO No2349

COMO SE DESENVOLVE A GUERRA ATUAL

(2)

Foi em Duisburg que a R. A. F. procurou vingar Couventry. Neste porto do Rheno, considerado o mais importante porto fluvial do mundo, e que é a ligação mais economica entre a Rhenania e o Ruhr, os apparelhos británicos durante largas horas, dedicaram-se a incendiar e destruir os depositos de materias, os cáis, docas e trapiches, havendo desorganizado o trafego, segundo afirma o Ministerio do Ar ingles. Antes de atirar as bombas pesadas, os aviadores dizem ter atirado bombas médias.

Por ultimo foram as incendiarias. Os resultados, declaram, consistiram em 31 incendios, entre os quais seis grandes fogueiras, não contando as destruições por desmoronamentos.

As condições atmosfericas, céu nublado, chuvas incessantes, densa neblina no Canal da Mancha, impuzeram uma restrição ás operações aereas, reduzindo-as a ataques isolados de bombardeadores solitarios. Não passou de tres dias esse curto periodo de ação ofensiva. Voltou a calma relativa de que tem gozado os londrinos, enquanto os alemães, independentemente de qualquer distração que possam criar para o adversario cuidam dia e noite sem descanço nem perda do menor instante de intensificar a guerra ou de leva-la para o sudeste da Europa e o Oriente Proximo.

Depois da conferencia preliminar do Fuehrer com Molotov, em Berlin, na qual se devem ter aberto as portas dos Balcans para o Eixo, o supremo dirigente nazista vem desenvolvendo uma ofensiva diplomatica, destinada a coroar-se com acontecimentos de enorme sensação. Seus embaixadores estão transmitindo convites indeclinaveis, além aos governantes da Hungria, Bulgaria, Rumania e Eslovaquia, um após outro para Berlim, Viena ou qualquer outro local eleito para conferencias, em que receberão a palavra de ordem do Fuehrer. Assim os paises submetidos ou sob influencia vão sendo rapidamente incorporados na «nova ordem européa». A Hungria, por seus ministros mais responsaveis, os condes Telaky e Czaki, firmou um convenio com os ministros do Exterior do Eixo, barão Ribbentrop e conde Ciano, mais o embaixador do Japão Kurusu, adrindo ao Pacto das Tres Potencias, isto é, a Aliança Roma-Berlin-Toquio. Os outros governos quiçá adiram ao triangulo totalitario, mas reconstituam a Entente Balcanica e a Pequena Entente, sob a égide de Berlin e Roma. A Iugoslavia, envolvida e arrochada pelo cinturão da nova ordem, provavelmente consinta em formar uma Entente, sob controle das potencias dominadores do continente.

A finalidade imediata desta ofensiva diplomatica é a obtenção de passagem para as tropas germano-italianas pelos territorios da Iugoslavia e da Bulgaria, para que alcancem a Grecia e a Turquia, por caminhos diretos e abundantes. Quando todos os Balcans, excetuados estes dois ultimos Estados, se acharem incluidos na orbita do Eixo, a Rusia talvez desista de qualquer obstrução á marcha para os Dardanelos.

Soará a hora dos acontecimentos de enorme sensação.

Celebrado o 50.º anniversario do Parlamento japonez

TOKIO, 29 — O parlamento japonez celebrou o 50.º anniversario da abertura da sua primeira sessão. A solennidade commemorativa foi realizada na Camara dos Pares, com a presença de s. m. o imperador, que, nessa occasião, recebeu em audiencia doze membros que serviram durante trinta annos ininterruptos, destacando-se, dentre elles, o sr. Yukio Ozaki, que sempre occupou o lugar em cada legislatura, na Camara Baixa, desde o estabelecimento do systema parlamentar no Japão e o Visconde Nobumitsu Aoki, na Camara Alta.

Um valor! Uma oportunidade!
Um excelente negocio!
Na Colonia Nipponica!
"ANNUNCIOS"
Sirva-se dos
do
"NOTICIAS DO BRASIL"
Rua Fagundes, 196 - Phone 7 4670
Caixa Postal, H. S. Paulo

LEIA O NOSSO
KODOMO NO SONO
Supplemento do jornal "Noticias do Brasil"

Nova phase na navegação aérea nipponica

TOKIO, 28 — O gigantesco avião «Avanami», pertencente á Cia. Aéronautica do Japão, regressou a Yokohama, hoje, ás 3 horas e 28 minutos após ter completado, com grande exito, o vôo experimental para o estabelecimento da nova róta aérea entre Yokohama, Saipan e Palau. O apparelho cobriu a distancia que separa essas localidades que é de uma extensão de 1000 kilometros em 36 horas e 32 minutos. O estabelecimento desta nova linha entre o Japão propriamente dito, as ilhas do sul e a Ilha Formosa, marcou nova época na historia da navegação aérea civil nipponica.

VISITA DO EMBAIXADOR DO JAPÃO Á A.B.I.

RIO, 2 (Pelo telephone) — O embaixador do Japão, sr. Itaroishii, recentemente designado para representar o seu paiz no Rio de Janeiro, realisou hontem sua primeira visita á A. B. I.

Recebido pelo presidente da Casa dos Jornalistas, desejou o illustre diplomata conhecer todas as dependencias da A. B. I., manifestando por essa occasião a sua sympathia pela instituição e pela imprensa brasileira.

O PRESIDENTE GETULIO VARGAS

Um estadista como ainda não surgira no Brasil

Conferencia pronunciada pelo sr. Marcondes Filho, em novembro de 1939, no Palácio Tiradentes, durante as celebrações culturais promovidas pelo Departamento de Imprensa e Propaganda em comemoração ao 2.º aniversário do Estado Novo.

(5)

O Império contém uma esplêndida galeria de estadistas, onde aparecem figuras excepcionais que serviram à nação com um senso extraordinário dos seus altos destinos. Sobretudo no começo, sobretudo na guerra e na sufocação das revoluções interiores. Sendo, porém, a República uma vocação americana, o Império envelheceu precocemente, quando entrou no período da paz. Os estadistas, aí nesse trecho mais próximo da nossa geração, são frutos de épocas tranquilas, de tempos compassados que, por provirem da rotatividade mecânica de partidos sem acção oposta porque um realizava o programa do outro, se constituiram afinal em girasóis do imperante e se tornaram áreas, simétricos, equivalentes, permutáveis e homólogos. Assinalo a circunstância para mostrar que a imagem dos nossos homens telúricos se afasta o tempo.

Tambem a República nos deu um quadro magnífico de homens de prol, entre os quais, nestes dias comemorativos do cincoentenário, manda a mais elementar justiça distinguir, admirar e louvar todos os que exerceram a suprema magistratura do país, que todos êles sem exceção de um só, foram exemplos de patriotismo e dignidade, e se inscrevem no epítome republicano como valores incontestáveis a serviço da nação. Trabalharam o material encontrado como lhes foi possível, afim de levar o Brasil para a frente e para o alto. Lutaram e sofreram porque viveram no ciclo em que o constitucional caminhava por uma direção e a realidade por outra. Nas horas perigosas se obedecem à constituição não eram compreendidos. Se entravam na realidade, eram forçados a temporárias encarcerações do regime. No primeiro caso eram combatidos. No segundo enfraqueciam o Estado.

Por outro lado muitos deles não podiam ser criaturas fundamentalmente federais, porque eram expoentes de fôrças de circunscrição, estavam vinculados a pactos comutativos, ao influxo de compromissos que os elevavam em nome de partidos localistas, sem raízes nem influência na integridade do país. Eram pensamentos estaduais, porque, em verdade, dentro das fronteiras, na vida doméstica da nação, o sub-conciente estadual como que sobrepairava à brasilidade. Esses, tinham a visão panorâmica das coisas, porque olhavam do alto do poder, porém, sendo frutos de um regime inadaptado, não podiam ver o Brasil como um largo e ensolarado painel. A fatalidade estadual o substituia por um conjunto de fragmentos justapostos, um trabalho de azulejos, que um abalo mais forte poderia romper. Aliás, há neste aspecto um novo motivo de elogio, por terem sabido resguardar o conjunto, através dos contratempos.

Todos êles, entretanto, dentro da sua época, lutando e sofrendo, realizaram galhardamente, com ánimo viril e espirito de renuncia, a função que lhes tocou, e são por isso merecedores dos mais altas homenagens e da perpetuidade da gratidão nacional.

UM PRECURSOR RACIAL

Mas, fechado êste parentesis de reverência aos que passaram, forçoso nos é convir que na hora incerta e abismal que se abriu para o país, após a queda da primeira República, submergido o Estado, tornava-se imprescindivel que surgisse á tona um estadista diferente, que, no próprio seio somasse as diversas qualidades e caracteristicas dos tipos humanos em que ainda se subdividem as nossas populações, porque a terra é grande e a gente é vária; que por esse poderoso e singular temperamento político, por essa prodigiosa formação psicológica — estranha flôr hibrida e rara — fosse como um ensaio, um precursor do tipo racial que há de surgir; e que, por isso, no meio heterogêneo, representasse a universalidade, e, como Pan, pudesse simbolizar todas as regiões; e por isso, por ser federal de nascimento, encarnasse o espirito do país através da conciência da própria vocação, para poder sentir e conter no peito a efervescência, a nebulosa, o caos de onde deveria emergir unificada a nação futura, e poder dizer como o poeta disse: «No fundo do meu ser, ouço e suspeito um pélago em suspiros e rajadas; milhões de vivas almas sepultadas, cidades submergidas no meu peito. A's vezes, um torpor de águas paradas... Mas, de repente um temporal desfeito: festa, agonia, jubilo, despeito, clamor de sinos, retintim de espadas, procissões e motins, glórias e luto, chôro e hosana... Ferver de sangue novo, fermentação de um mundo agreste e bruto... E há uma esperança, de que me comovo, e uma grita de duvidas, que escuto, a incerteza e a alvorada do meu povo!»

Da Independência ao Estado Novo

(6)

Deflagrada esta em 3 de outubro de 1930 simultaneamente no Rio Grande do Sul, Minas Gerais e alguns Estados do Norte, envolveu rapidamente todo o país. A grande maioria dos governos dos Estados do Norte caira sem resistência. As tropas revolucionarias onde se confundiam militares de todas as armas e civis de tôdas as classes sociais, partidas do Rio Grande do Sul, atingiram em poucos dias as fronteiras entre os Estados do Paraná e São Paulo. A 24 de outubro os militares da guarnição do Rio de Janeiro resolveram fazer cessar a luta civil, constituindo-se uma Junta Pacificadora composta de generais e almirantes. Depois de alguns dias de govêrno, a Junta Pacificadora entregou-o ao sr. Getulio Vargas, chefe civil da Revolução. O Presidente Washington Luiz tinha sido preso e deportado para a Europa. A Revolução, para a qual haviam concorrido tantos elementos heterogêneos, alcançava o triunfo final. Os politicos vencidos, não podiam oferecer nenhuma resistência á nova ordem de coisas, conformando-se com a derrota. A enorme maioria da nação, pelas suas classes civis e pelas suas fôrças armadas, aceitava entre entussiásticos aplausos a vitória revolucionária.

O Brasil recebia o novo Govêrno com as mais ardentes esperanças. Se a Revolução não amadurecera nenhum largo programa construtivo tinha, no entanto, a complexa missão de destruir os erros do passado, preparando o terreno para a implantação de nova ordem de coisas. Qual deveria ser esta? Como encaminhar o país em meio do natural tumulto pos-revolucionario, para as suas novas finalidades? Mais do que nunca, da ação pessoal de um homem, o chefe supremo do Govêrno, dependia a sorte imediata da coletividade brasileira. Veremos no capitulo seguinte como o sr. Presidente Getulio Vargas procurou corresponder á especlativa do Brasil.

NOTICIARIO ESTRANGEIRO
DO
«NOTICIAS DO BRASIL»
FORNECIDO PELA AGENCIA
TELEGRAPHICA «DOMEI» JAPONEZA

OS MISSIONARIOS CATHOLICOS

Desde longa data que a immigração de japonezes no Brasil suscitou os mais desencontrados commentarios embora ao tempo em que foram introduzidos os primeiros trabalhadores no Estado de S. Paulo houvesse grande falta de braços para a agricultura, especialmente na lavoura cafeeira.

Realmente, os primeiros immigrantes deixaram muito a desejar, porque a Companhia contractante do serviço de immigração no seu interesse de arrebanhar pessoal em quantidade, pois recebia «por cabeça», descuidou de attender á qualidade dos elementos que engajava para o nosso paiz.

O resultado não se fez esperar, e, dentro em pouco, a primeira leva de nippões regressava ao Japão.

O fracasso era natural, visto a collecta do pessoal ter sido feita no littoral e não entre elementos ligados á gleba, como ficou demonstrado pouco depois, quando aqui aportou o segundo lote de immigrantes.

A adaptação dessa gente custou um pouco, porque como se sabe, os seus costumes são inteiramente differentes dos nacionaes e dos europeus, portuguezes, italianos e hespanhóes, colonos que constituiam a base das fazendas cafeeiras.

Esse choque deu alguma dór de cabeça aos fazendeiros, sendo preciso estabelecer divisas e separações, especialmente no que dizia respeito ao modo dos nippões se banharem, sem o resguardo adoptado entre os filhos de outra civilização, especialmente a christã.

Aqui mesmo na zona que os japonezes occupam actualmente, Conde de Sarzedas, Conselheiro Furtado e adjacencias, varios foram os desentendimentos verificados com os antigos habitantes.

Essas e outras circumstancias levaram as entidades catholicas a exercerem a sua actuação entre os japonezes, sendo criado um Curato, na igreja de S. Gonçalo, sob a direcção do revmo. Pe. Guido del Toro S. J.

Os trabalhos, verdadeiramente apostolicos foram de grandes resultados moraes e espirituaes, tendo fundado o Collegio S. Francisco Xavier, onde os decendentes dos japonezes adquirem ensinamentos para bem se assimilarem á terra em que nasceram e vivem.

Está ainda na lembrança de todos o grande numero de baptizados realizados na velha igreja de S. Gonçalo, tanto de infantes como de adultos que se converteram ao christianismo, fazendo depois vida de fé e de proselytismo.

Ao lado desses trabalhos, vem agora a Escola Missionaria Pio XI, situada em Taipas, realizando uma obra digna da attenção no sentido de assimilar e christianizar os alienigenas, particularmente os japonezes.

Essa Escola Missionaria, a cargo dos revmos. franciscanos, destina-se á formação de catechistas leigas, verdadeiros auxiliares dos sacerdotes, que irão desempenhar a sua missão, nas parochias, nos lares, enfim, em todos os recantos possiveis, abrindo desse modo o caminho á catechese nipponica, contribuindo para a formação religiosa, moral e social e para a nacionalização dos mesmos; unificando-os pela mesma fé, pelo mesmo patriotismo que vive no coração dos brasileiros.

A catechese nipponica no Brasil, é um problema que merece consideração: cumpre citar que do numero elevado de 300.000 japoneses aqui residentes, apenas, 7.000 são baptizados e dentre estes, muitos ignoram a strado um preparo solido na fé, resultando dahi o abandono dos seus deverés de catholicos.

Acresce, porém, ponderar que para christianizar, é, preciso attender a dois factores importantes: difficuldade da lingua e a falta de sacerdotes, pois apenas seis padres falam a lingua japoneza.

E' este um vasto campo para o apostolado leigo que, pelo seu exemplo, pelo seu espirito de sacrificio e de abnegação irá levar o conforto aos que soffrem, a caridade de uma palavra amiga aos que choram, lançando a semente da fé, esperança unica, razão de ser da nossa existencia.

As alumnas desta Missão, terminando o seu curso, fazem a promessa de observar a Regra da Ordem Terceira de S. Francisco de Assis, ingressando na vida pratica e activamente no trabalho apostolico da catechese nipponica, porque, como leigas, terão maior facilidade de penetração nos recantos sociaes e familiares, auxiliando, sobremodo os sacerdotes nos dotes nos trabalhos do seu ministerio.

São estes os traços principaes, a finalidade da formação de catechistas leigas da Escola Missionaria Pio XI, que pede e espera o apoio e a solidariedade de todos quantos queiram cooperar na vasta obra de brasilidade e patriotismo e de profundo sentimento christão.

Pertencem á Escola Missionaria Pio XI os revmos. Freis Martinho Friese, Virgilio Nagel e Bonifacio Dux, todos residentes na estação de Taipas (S. P. R.), sendo que tambem pódem ser obtidas quaes quer informações na portaria do Convento de S. Francisco no largo do mesmo nome.

◇ ◇ ◇

世紀の英雄

夏目 [illegible]

（六十三）

街の灯はるか（十四）

その年の暮れに、純吉の母は死んだ。

死ぬまで言つてゐた言葉は、父に對して、「娘を賣とばして酒ばかり喰つてゐた鬼爺い」であつた。

純吉の姉は、賣られて行つた先から母の臨終を聞いて駈つけたが、息のある中に間に合はなかつた。

姉は、母の死體にとりすがつてどれだけ泣いたことか。

「苦勞をするために生きてゐたやうなおつ母さん。あたしが、賣られて行つたのは何のためなの。おつ母さんに一寸でも樂なおもひをさせたいばかりにやつたことぢやないの。それがこんなに早く死んでしまふなんて」

何度もくもさう繰かへすのである。

父は通夜の日から通しての酒びたりであつた。然し姉は止めなかつた。

「お父つあん、飲んだらい、わあたし、ちつとも止めないわよ。飲んで少しでも苦しさを忘れることが出來るならこんな安いものつてありはしない」「お前には、お父つあんの飲む氣持ちが解るとみえるだが、佛はな、死ぬまで乃公がお前を賣り飛ばした金で酒を飲むと言つて鬼爺と怒鳴りつゞけてゐた」

「あたしだつて、水戸へ行かなかつたらおッ母さんと同じことを言つたかも知れない。水商賣をして、お酒をのむ男の姿を何度もみせられて解つたことなのよ」

「すまねえ、乃公が意氣地なしだ」

「お父つあんが意氣地が無いのぢやない。世の中がわるいのよ」「つれえからもう何も言ふな」姉と父との會話はこんな調子であつた。

初七日があけると早々姉は水戸へ歸り、純吉は純吉で東京の遠い親戚にあづけられて奉公することになつた。

純吉の奉公したさきは、郊外の雜貨屋だつたが、雜貨屋は一錢二錢といふ商ひだけに朝から晩までこきつかはれた。純吉は

さうして一年たつか、たゝぬ中の事、それは翌年の春。突然姉が霞ヶ浦に身を投げて死んだのである。どうして死んだか、原因は誰にも解らなかつた。村では、賣られて行く前に、姉と想ひ想はれつの男があつて、男が嫁を貰つたので身を投げたのだと言つてゐた。だが、純吉は、本當に思へない。

もし、さうした事實があるなれば、賣られて行く時にやつたことであらうし、また母の死の時にだつてしたに相違ない。姉の死について、父の失踪がある。父が謎に姿を消してしまつたのは純吉にははつきりはのみこめないまでもぼんやりと解るやうな氣がした。それは、生きる希望、生活の希望を失つたのであらう。もし、それが純吉に一縷の望みを託してゐるなれば、

「あの子は乃公が居ない方が育つ」

こんな考へをしたに相違ない。かうして純吉は、天涯の孤兒になつた。

孤兒になつた純吉が、ダンスホールのボーイになり、やがて滿洲まで來て、アコーディオンで流す少年になるまでには色々事件が織こまれてゐるが、それはまた後日、[illegible]に譲るであらう。

今はとにかく次のやうに言ふのだ。

「僕はたつた一人ぼつちで、生活してゐるのさ。だけど、滿拓少年義勇軍にいつかは入りたいといふ希望を持つてゐるんだよ」